HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	飲酒という人間の行為の負の側面から社会を読み解く ： 眞崎睦子先生(メディア・コミュニケーション研究院　多元文化教育論分野)
Relation	北海道大学附属図書館 本館 正面玄関ホール（展示）. 2015年10月19日（月）～11月2日（月・祝）. Hokkaido University Library (exhibition). Monday, October 19th, 2015 - Monday, November 2nd, 2015.
Issue Date	2015-10-19
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/60204
Type	lecture
File Information	OpenAccessWeek2015_04.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

飲酒という人間の行為の負の側面から社会を読み解く

メディア・コミュニケーション研究院　多元文化教育論分野

眞崎（まさき）　睦子（むつこ）　先生

HUSCAP（ハスカップ）は年間約 3000 件のデータを登録していますが、そのほとんどが雑誌論文です。その中で、図書資料『お酒を手にした未成年のあなたへ：断酒会会員と家族からの手紙』をご提供くださった眞崎睦子先生に、お話を伺いました。

1. 先生の研究

―― 先生は栞の研究をされているとのことですが。

栞は、もともと「枝を折る」と書いて「枝折（しおり）」と読むのですが、“昔、山中で道に迷った旅人が、後から山に入る人が迷わないようにと木の枝を折って「道しるべ」としたもの”のことを言います。

私は、そのような栞、“無名の人々が、同じ問題を抱える後進のために、どのような情報提供を行ってきたか”を眺めてきました。

―― 最初は移民のための栞（教育メディア、リーフレット・パンフレット類）を研究されていたのですね。

はい。当時（注：19 世紀後半～ 20 世紀前半）は、インターネットもガイドブックも無かった時代ですが、先に渡米した人達が後から渡航する人達のために、『渡米婦人心得』などの栞を作っていました。それらは、指導者や専門家ではなく、無名の人々が、先に困難を経験した立場からの視点で作ったものです。

形状としては 1 枚刷のリーフレットで、柳行李やポケットの中にしのばせることができるようなものでした。これを、私は最も小さな「紙上の学校」と呼んでいます。

―― 「社会問題としての飲酒」もテーマだと伺いましたが、こちらも栞の研究なのでしょうか。

移民教育と飲酒の問題とだけ聞くと、確かに不思議に思われるかもしれませんね。ですが、どちらも栞、後進への「道しるべ」の研究です。

飲酒、厳密には、アルコール依存症の方々とそのご家族によって組織された自助グループ“断酒会”の方々にご協力いただき、飲酒という人間の行為の負の側面から社会を読み解くことを試みています。この断酒会も、移民の栞と同じように、“指導者・専門家のいない中で、同じ問題を抱えている当事者同士が行う相互教育の場”なのです。

―― 飲酒の負の側面を研究することになったきっかけは、何だったのですか。

大学で教鞭を取っているということもあって、大学生を対象に調査したところ、断酒会のような自助グループの存在を知るものがほとんどいないことに気づきました。「今はインターネットで何でも調べることができる高度情報化社会なのに、何故だろう」と、不思議に思ったのです。

また、この調査結果を 2003 年のロンドン大学で行われた学会で発表したところ、聴衆から「日本の大学生は本当に知らないのか」「欧米では小学生でも知っているのに」というような反応をいた

だいて。

その頃、関東の大学生らのインカレサークル、スーパーフリー事件があり、道具として使われていたのが、アルコールでした。たまたま、日本にお詳しいオーストラリアの方から「事件後、日本の大学は学生の飲酒に対してどのような方針を打ち出したか」と質問されました。学会での質疑応答の時間はいつも楽しんでいる私ですが、その時は答えることができませんでした。そこで、飲酒の負の側面を、社会学の観点から外へ発信していこうと考えたのです。2009 年 5 月 1 日には、『朝日新聞』< 私の視点 > に、「若者と薬物　飲酒に甘い社会が入り口に」というタイトルで、小さな調査結果、「空気を読んで飲酒している大学生の姿」が掲載となりました。

―― 先生は、アルコールも薬物であるという情報の発信もしていますね。

はい。先ほど紹介した朝日新聞の記事では、「アルコールは、依存性の高い覚せい剤などの薬物乱用者の多くが最初に使用する薬物（ゲートウェードラッグ）である」「飲酒に甘い社会こそが薬物乱用社会の入口になっている」と書きました。

「ダメ。ゼッタイ。」という薬物乱用防止キャンペーンの標語は聞いたことがあると思いますが、この呼びかけには、覚せい剤や大麻はあっても、アルコールの情報が欠落しています。

『お酒を手にした未成年のあなたへ』が刊行となり、各地の中学、高校、大学、フリースクール、院内学級に送らせていただきましたが、「薬物乱用防止の話なら分かるが、お酒はいいものですよ」という反応に出会うこともしばしばでした。アルコール = 薬物という認識は、日本の社会ではあまり深まっていないと感じます。

また、この本が酒類製造販売企業の社会貢献活動の一環として刊行となったということも知っていただきたいです。企業が商品の問題を認識しているがゆえに、私の教育・研究活動を支えてくださったということですから。

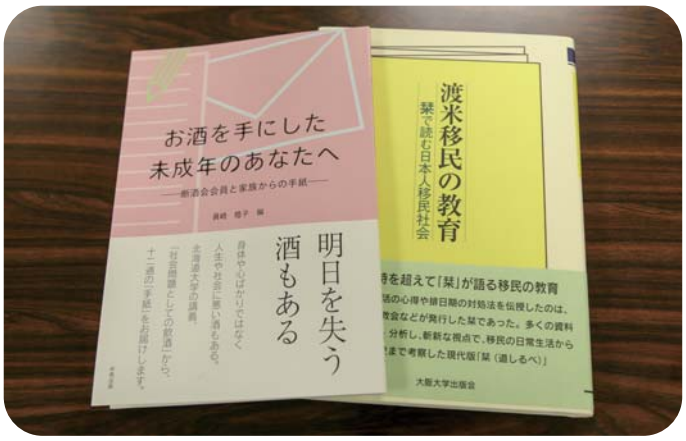


写真
上：
先生の著書

中：
附属図書館本館にある先生の著書①『お酒を手にした未成年のあなたへ：断酒会会員と家族からの手紙』

下：
附属図書館本館にある先生の著書②『渡米移民の教育：栞で読む日本人移民社会』

2. HUSCAP で図書資料を公開して

―― 普段、HUSCAP で公開される資料は雑誌論文が多いですが、先生が提供してくださった『お酒を手にした未成年のあなたへ』は、図書資料ですね。

この本は「とにかく多くの読者に読んでもらうには？」という視点で作成しました。

多くの読者に届けるには、岩波ブックレットのような小冊子であること、インターネット（HUSCAP）で公開できることが前提だったのです。

また、読者としては、インターネットで資料にアクセスできる人、アクセスできない人、紙で読みたい人の三者を考えていたので、紙のものを 1 冊 500 円以下で販売できることも条件でした。

いくつかの出版社がインターネットでの公開を困難とする中、対応してくださったのが札幌市の中西出版さんでした。

HUSCAP で公開したことで、お役にたてたことはありますか。

先ほど、『お酒を手にした未成年のあなたへ』を各地の学校に送ったという話をしましたが、アルコール・薬物関連問題の教育者が得にくい僻地の学校にも送りました。

所収の一通目の手紙は長崎県の五島列島福江島からの手紙です。同じ " 島 " ということで、ある離島の高校の先生から興味を持っていただいて。

離島には大学がないので、高校卒業後に進学・就職し島を出て、まず周囲からお酒の洗礼を受けるそうなんですね。そのため、生徒さんたちが、島を離れる前の「薬物・アルコール教育講座」の教材としてお使いいただきました。ただ、生徒全員分の本を送ることは出来なかったので HUSCAP で公開していたことが役に立ちました。生徒さんからの感想文は 12 通の手紙の執筆者のみなさまにお渡ししました。

この秋には大分県立三重総合高校久住校をお訪ねして 80 名あまりの生徒のみなさんにお話しさせていただくことを楽しみにしています。いずれも HUSCAP があったからこそできた、うれしいご縁です。

3. 研究成果の公開にあたって

先生の研究の場合、個人情報保護の必要などもあると思いますが、研究成果の公開について注意していること、考えていることはありますか。

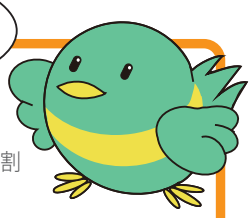
公開に限ったことではないのですが、倫理的な側面から言えば、調査・研究することが、対象となった人にとって「いいことでもなんでもない、むしろ迷惑で終わることも多々ある」という前提は、いつも考えていますね。

個人情報保護の観点から言うと、調査者・研究者として個人情報をお預かりする場合は、協力者（調査対象）の方々が、その使用に「Yes」と仰ったとしても、それにそのまま甘えるのではなく、より慎重に扱わせていただくべきであると考えています。『お酒を手にした未成年のあなたへ』の中で、手紙を書いた人を表す部分は当初イニシャルで出す予定で、協力者の方にも了承はいただいていたのですが、最終的にはイニシャルも出さず、地名と親族呼称（○○の「お母さん」からの手紙など）にしました。常に、自身の情報の取り扱いが正しいのかどうかを疑いながら、協力者の方々とお付き合いを続けることが大切だと思います。

また、研究成果を公開することについては、内容・アイデアなどの盗用／その発覚などの残念な報道が相次いでいます。研究者に限らず、「不適切な引用や盗用をすることは、研究成果・教育成果の “搾取” に他ならない」という当たり前の意識が広がって、正しく活用されるといいなと考えています。

（インタビュー／笠井・近藤）

HUSCAP で先生の著作をご覧になれます



日本型自助組織「断酒会」の誕生とその役割
http://hdl.handle.net/2115/53827

お酒を手にした未成年のあなたへ : 断酒会会員と家族からの手紙
http://hdl.handle.net/2115/54716

日本の大学におけるアルコール飲料の取り扱いと適正飲酒教育 : 酒販売及び提供に関する生協の役割を探る
http://hdl.handle.net/2115/51120

北大生 101 人と飲酒 :「飲酒に関する大学生の意識調査」（2007 年）
http://hdl.handle.net/2115/30338

なぜ大学生の飲酒死亡事故はなくならないのか : 日本の大学における「静かな強要」と飲酒関連問題対策
http://hdl.handle.net/2115/53595

ブラジル移民への栞 : 横浜・神戸・船上の移民教育
http://hdl.handle.net/2115/32591

日本人移民渡米全盛期の「栞」:『渡米婦人心得』をめぐって
http://hdl.handle.net/2115/49829

他